

I. 地域概況

1. 位置・地形・地質

今回植生調査の対象となった福岡市は、日本列島の南西部にある九州のほぼ北端に位置しており、福岡県の県庁所在地として九州の中心地となっている。

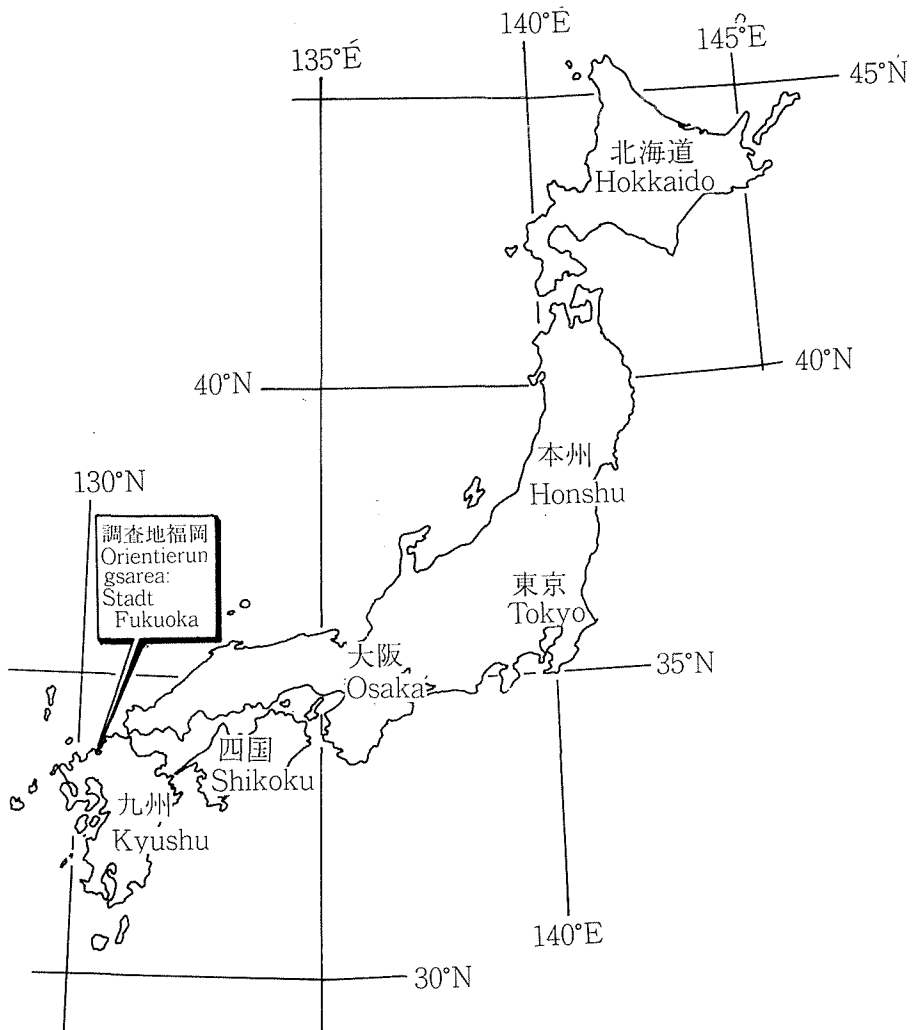


Fig. 1. 位置図
Lage der Untersuchungsareale

福岡市は、南に背振山地、東に三郡山地の海拔1000m前後の峰々を配し、北～西は、市街地の発達した沖積面が博多湾さらに玄海灘にいたる。福岡平野には多々良川、那珂川、室見川などが博多湾に注いでいる。雷山(955m)、金山(967m)、背振山(1055m)、九千部山(847m)などからなる背振山地は、南側を佐賀県との県境とし、花崗岩を中心とする地質からなっている。

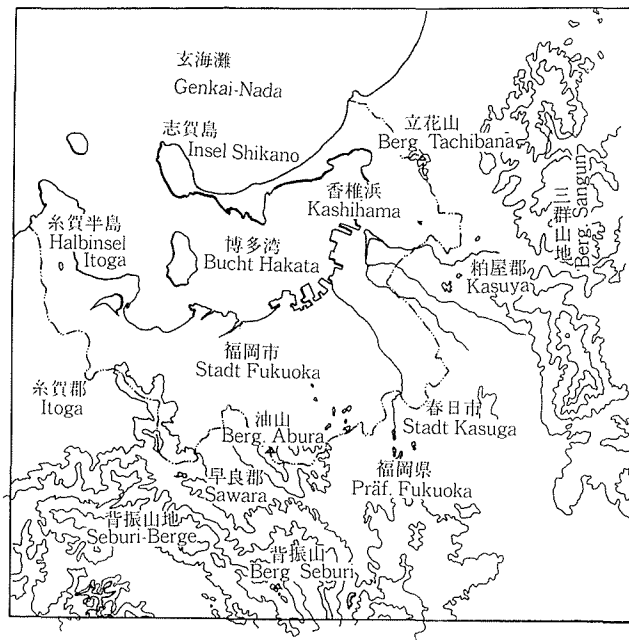


Fig. 2. 福岡市および隣接地の概観図

Übersichtskarte des gesamten Areals der Stadt Fukuoka und ihrer Nachbarstädte.

2. 気 候

福岡は、夏季に亜熱帯高気圧に支配されて暑く、春秋には大陸からの移動性高気圧に影響されて温暖となるが、冬季にはシベリア寒気団からの季節風を受ける。7月の平均気温26.5°C、8月の平均気温27.2°Cの値を示し、夏季は亜熱帯的気候となるが、冬季(12月～2月)の快晴日数は最近30年の平均で6日、降雪日数は18日と裏日本的な気候下にある。しかし、冬季(12月～2月)の降水量が、新潟の952mmに対し、福岡で228mmであるため裏日本型気候の典型的な地域とは言えない。

植生にかかわりの深い気候指数の暖かさの指数(古良1945)は、福岡で128°であり、より温暖な気候条件にある南九州の臨海域と共通してヤブツバキクラスに含まれる自然林のミミズバイースグジイ群集、ムサシアブミータブ群集、オニヤブソテツハマビワ群集などの生育がみられる。

Tab. 1. 福岡の気候年表
 Meteorologische Daten für die Stadt Fukuoka
 (33°35'N, 130°23'E, 海拔高 Meereshöhe 2.5m)

月別 Monat	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
種別 Angabe	Jan.	Febr.	März	Apr.	Mai	Juni	Juli	Aug.	Sept.	Okt.	Nov.	Dez.	Jahr
気温 (°C)													
Lufttemperatur													
平均 Mittel	5.3	6.0	9.0	13.9	18.1	21.7	26.5	27.2	23.3	17.3	12.5	7.8	15.7
最高平均 Maximum	9.3	10.2	13.8	18.9	22.9	25.9	30.5	31.7	27.8	22.6	17.8	12.1	20.3
最低平均 Minimum	1.5	1.9	4.2	8.9	13.4	17.9	23.2	23.5	19.4	12.4	7.6	3.6	11.5
月降水量 (mm)													
Niederschlag	77	77	97	134	144	273	252	161	237	100	79	71	1705
湿度平均 (%)													
Humidität	69	70	70	74	76	80	80	79	80	76	74	71	75

1941-1970年平均 Mittelwerte von 1941 bis 1970

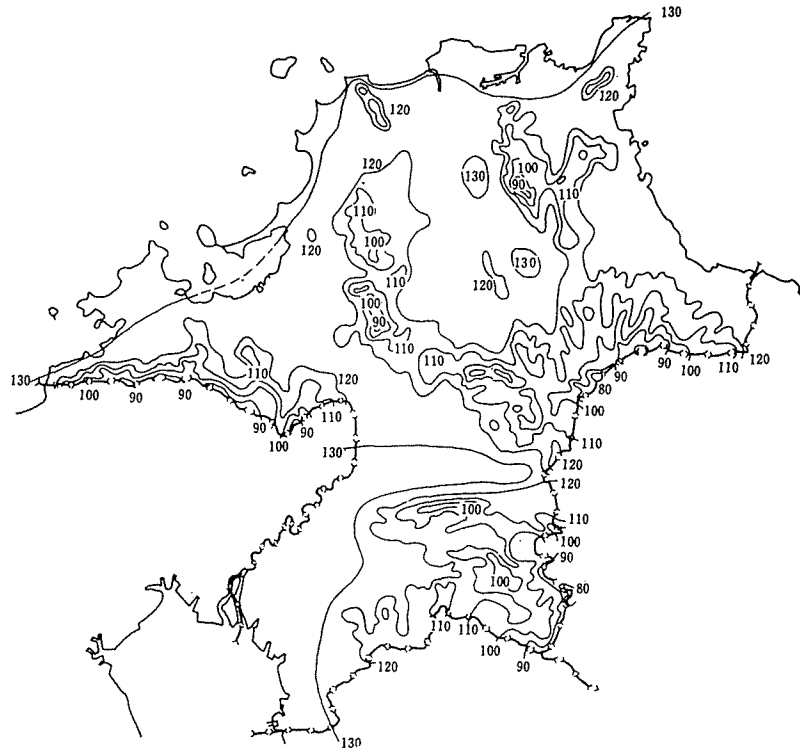


Fig. 3. 福岡市の暖かさの指数分布図
 Verbreitungslinie des Wärme-Index nach Kira in der Stadt Fukuoka (Kira 1945)

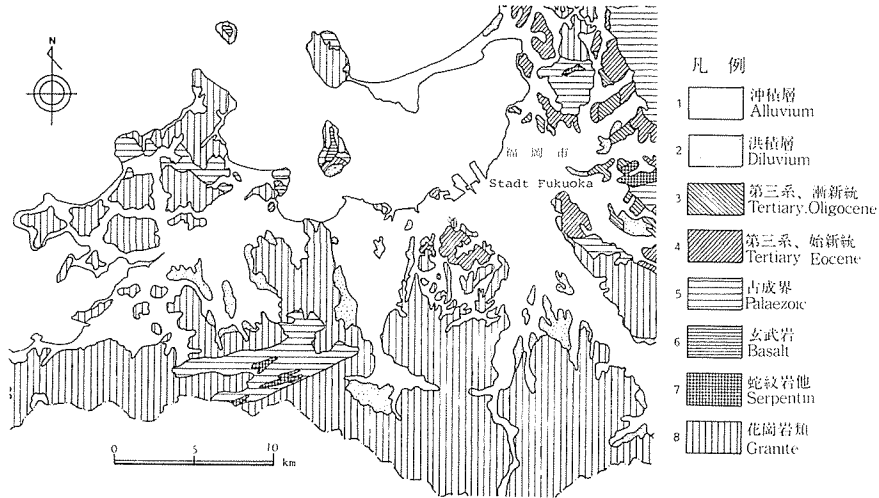


Fig. 4. 福岡市およびその周辺の地質図
Geologische Karte der Stadt Fukuoka

- A. 堆積岩・変成岩 Sedimentgesteine u. Metamorphe Gesteine
- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1: 沖積層 (埋立地を含む) | Alluvium und neugewonnenes Land |
| 2: 洪積層 | Diluvium |
| 3: 第三系・漸新統 | Tertiär, Oligozän |
| 4: 第三系・始新統 | Tertiär, Eocene |
| 5: 古成界 | Palaeozoicm |
- B. 火成岩 Erstarrungsgesteine
- | | |
|---------|-----------|
| 6: 玄武岩 | Basalt |
| 7: 蛇紋岩他 | Serpentin |
| 8: 花崗岩類 | Granite |

3. 人為的影響

今回、植生調査が行なわれた福岡市とその周辺は、三世紀頃に邪馬台国の成立以来の歴史の古い地域であり、さまざまな形の人間活動が行なわれ自然環境の改変、植生の破壊、変化が生じている。中国大陸の稲作文化などが、朝鮮半島を経由して、福岡地方にきわめて早い時期に渡来したとされている。

諸文化の発達は、土地利用形態にもさまざま影響を与えてきた。農村地区においては、より経済性の向上、生活の豊かさを求めて、山地、台地、沖積地を開墾して、耕作地や造林地の面積を拡大してきた。その結果今日では、いろいろなタイプの代償植生（人工林、二次林、二次草原など）が広く見られる。また、都市部では、新しい産業や人口増加にもなって、宅地・工場の造成が山地、台地、沖積地、埋立地まで進められてきた。市街地、工場地、造成地やその周辺には現在裸地も少ない。このような、空地には、一般に雑草と呼ばれている草本植物群落が繁茂している。